

8 久屋大通とまちの連携の方向性



久屋大通とまちの魅力の維持・向上のためには、以下に例示する取組みを実施するなど、民間事業者や地域関係者等が主体的に関わる地域連携の取り組みなどが重要となります。

地域連携の促進による久屋大通の魅力向上

- ・地域関係者等が連携して、イベント開催や清掃活動、防災・防犯活動の実施、多様な表現活動の促進に取り組むことで、にぎわいや憩いの空間が創出されている。
- ・沿道事業者等は、公園や沿道を積極的に活用し、CSR活動（社会貢献）や寄付・協賛金等による久屋大通の魅力向上に取り組んでいる。
- ・インターネットの拡散力や文化・芸術の発信力を活用することで、国内外からの関心を高め、公園ユーザーやまちづくりの担い手を獲得し、持続的な魅力向上を図っている。



出典：地域まちづくりのみちしるべ
（名古屋市）

久屋大通の空間活用を起点としたまちの魅力向上

- ・久屋大通沿道の建物は、リニューアルや建替え等を機に、主に低層階を公園側に開かれた設えとすることで、沿道や周辺地区と一体感のある空間形成を図っている。
- ・センサ等を用いて人の流れを把握し、混雑状況の発信による快適性の向上や公園の利用状況に応じた沿道の利活用を図ることで、商業地の活性化に取り組んでいる。
- ・都心部の自動車交通機能が整理され、路上駐車や歩行者空間の拡大等にあわせ、緑の拡充や休憩施設の設置などの沿道の利活用により、地域の価値向上に取り組んでいる。



（丸の内仲通り／東京都）

データを活用した公園と沿道のまちの連携促進

- ・公園の利用や管理に係るデータのデジタル化・オープンデータ化や、エビデンスに基づく公園管理手法を取り入れることで、高質な維持管理を実現している。
- ・公園におけるデータの利活用により得られた知見をエリアマネジメントに応用するなど、都市の問題に対し機敏かつ柔軟に対応する機動的なまちづくりを推進している。
- ・公園で得られるデータだけでなく、まちのデータも併せて活用することで、公園の魅力向上が地域の価値向上や商業地の活性化へ波及し、空間の利活用が好循環している。



出典：スマートシティサービスの連携ユースケース（国土交通省）の図を基に作成